



繪入 増補

小笠原流百首條

明和
萬家日用文章

諸

全

口9
35



津口門
 35
 429
 卷

東京市本郷区久保
 餘丁百拾番地
 坪内雄成藏

小笠原流儀方百ヶ條

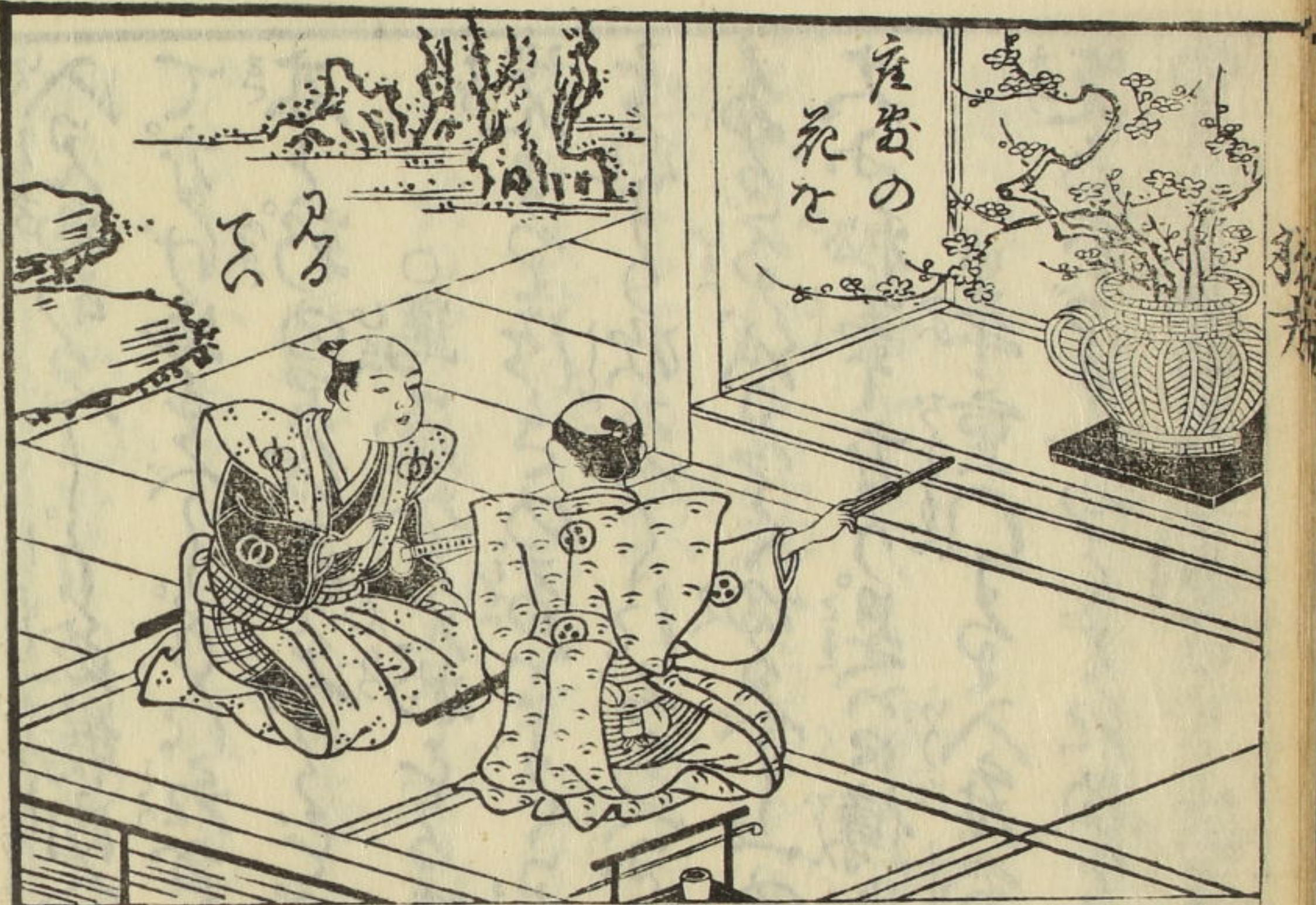
先哲の人の氣にあらんとする事を
 わく其ゆゑに是れをわく人も
 又その心をそとにあらせしむる事
 物と人かよふ事とをわく人も
 わく人も人かよふ事とをわく人も
 かんようかんとわく人も
 かんようかんとわく人も

先第一披露書百ヶ條可借次第



書画二筆下河邊拾水

明治三十六年十一月五日
 坪内雄成氏寄贈



上はく右のふくたの星の
 とかをさしひかす。板産物
 (あぐら) 産物の先とて
 わらばさきとて板とて
 ぐさぐさをいれとて
 物でい金の縁のほごなり
 ○産物之花をいれとて
 先あるこ小箱とて
 花のそごすよりわきり
 らどとて横巻とて
 女をほご先あるのこ
 目紙

是を次よあんのたの枝よめと付板たのうけ枝よめをつけ
 きてあつらひらほもあがーをさく板氷とてとるなり板
 あらしてまづあつらひらをまよりあんをかめた
 右乃うも枝とてやめて其後何れもあつらひら
 ておくなり

○左方折紙の信取返しの事

是の折紙を星乃におく先奏者をあひく。奏者出云
 いそいそ左方折紙を下に垂下を云く。板左方折紙
 を一夜ふたて折紙をほごのあに垂下とてとりたす
 いろくをたふ又星乃おそく一礼とてさうなり

○左方小状巻をそく信取返しの事

板方

是のき方の右名目いたふおと、まうと、ねを力とたよ、魚名目を
をたふ、魚口とをのべ、ねを力折る、紙後して、名目をたて、を
力の糸に横小垂る。一貫、二貫、又貫文まで、横小垂なり。
十貫又をぶ、又貫又つ、十の字なるよ、垂る。ちるる。一、後五
やうい、先名目を、又貫又つ、たの、腰よ、垂、ねを力折る、紙五
て、一札とく、ね名目を、抱、小、後して、ま、やうい、口、傳あり

○途中のち力乃、傳、後、一の事

其、中、い、ご、を、は、き、あ、ん、ご、右、の、膝、の、う、ふ、ち、力、と、垂、ね、た、の、ゆ、び、と、
地、よ、折、く、口、と、を、の、べ、と、ね、折、紙、と、た、り、け、ち、力、の、目、貫、の、下、に、
わ、く、中、に、は、く、後、と、ぶ、一、傳、ち、力、の、其、ま、あ、く、一、札、と、通、ぶ、
其、介、に、傳、あり、中、の、武、士、の、札、を、力、を、中、あ、く、傳、後、

か、死、事、あり

○お、猿、樂、に、ち、力、折、紙、出、と、事

お、ま、い、ふ、い、振、は、く、酒、と、猿、樂、小、の、お、ま、あ、く、後、と、ぶ、ね、
後、と、ぶ、折、紙、を、は、き、を、の、ち、い、わ、く、い、び、ご、紙、つ、と、ぶ、て、あ、る、お、
を、さ、う、出、く、後、と、ぶ、一、傳、ち、力、事、の、その、ま、あ、く、ね、垂、
い、と、く、あり、ね、を、力、と、と、て、何、も、も、は、く、ふ、ふ、い、一、貫、文、に、く、
傳、ち、力、を、お、十、上、傳、世、上、肩、夜、た、ま、あ、く、う、け、る、なり

○舞、ま、い、猿、樂、小、小、袖、は、く、と、事

小、袖、の、下、ぐ、を、と、く、な、う、て、考、も、あ、る、と、向、の、者、乃、ま、い、
か、く、て、出、と、ぶ、一、傳、ち、力、事、の、其、ま、あ、く、い、け、と、ま、あ、り

○武、士、の、小、袖、の、あ、く、や、う、れ、事

長刀をいづつは先かきして刃を我前かして右に持後
と肘のひざをばしむ。右車一して下に立双と左前よかきと。
下ひの乳をこく後とぐ。傳ねるのたのみとよかきと。
よこ下ひの乳をこく傳ねる。板一乳してのくべ。終
も回前やうまの傳

○弓の傳ね後一の事

弓のうしろを先かきして。ちよ持て後と肘をまうとく
うしろををるけ。右のみやぐ。あぶられりをおく後とぐ。
傳ね事ハあのみと。二なまか。よて下ての乳をこく傳ね。
右の服よ立。一乳志くのくべ。はるのひやるるち。わら本れら。
的むいり。まきと。箭。矢をまうる弓。うらぐ。みかは傳

○うつがの傳ね後一の事

うはがらまきと伝ねる持。取るとちよ持。板後と肘。あまの
あま。かをたかきして後とや。傳ね事ハ。其ま。傳ねなり

○板の物をは目ふける事

板の物ハ。あせせと。人のひえな。い。や。も。幸ては目ふに
ゆるる。さ。て。す。た。物。を。ご。う。り。目。然。う。か。て。は。め。う。る
か。ま。そ。の。か。う。は。傳

○伝さんかどをばめにける事

伝さん。い。ま。ぶ。く。い。は。い。か。ど。う。は。ん。中。の。あ。う。り。は。目。ふ。う。ち。
板。た。の。伝。板。右。の。あ。と。は。め。に。う。け。は。かり。又。あ。う。ち。の。ま。い。り。
種。く。の。伝。わ。ら。は。先。墨。伝。を。は。目。う。け。板。次。よ。落。し。て。い。は。い。

彩色を日月ふゑるなり。但しあわづら落彩ぬたよかり
○露白鳥を日月ふゑる事

是かしらぬたのぬぐのちをへぬたのぬぐとて入る
あく。養にとりてうらぬ我まよかしくはめにくくさ
厚も日事なりやうといは侍

○雑鴨を日月にくく侍事
はぐひの鳥なふをなるとしを後とては合をさる
の我なめとるとためとていさして改て我まよ
かしくは月にくく侍

○栲を日月ふゑる事
まよけいりやどわのさふも。切めをはめにくくも。栲を

さうかのかうなり

○奥の敷を日月にのける事

程結結何きも。けの敷と。服と。合と。合と。合と。是
も改を。我方なして。日月ふゑるなり。又一の奥を。後と。我
右のうへか。くはめよめくるなり。栲を。改て。我まよ。者ハ
ひふふ垂る。やうといは侍

○鷹乃鳥を日月ふゑる事

鷹の鳥を。かんと。右ふ。栲は。めにくく。は。あ。と。た。の。よ。の
ひらに。是を。まよ。て。い。ら。ち。は。日月ふゑる。なり。ぬ。た。ゆ。ら。あ。つ。と

○鳥の子松糸を日月ふゑる事

敷い。程。も。も。板。の。地。乃。お。と。ち。紙。と。日月ふゑる。こと。侍。事

○中か板をうらんと産後(出)る事

是の鳥にても真少くもどあり付る。此の産を料理人の前ふ
かしくともるなり。真の及紙料理人のたかして板のかりよ
まにとありなり。板捲丁と料理人のたかふ。又と肉よなりと産
たし板方に紙一重。口つおおと。其よ小箸をさくさくさく
へ。二人してつひく出て先おまふる者板と産あつてまふる
る。此をさくさくする者。わくとあつて板を押直してゆはじ
よるあつたり

○鞍を四目ふぬる事

鞍のまじこを我前ふかしく。たの及産うらんとひく。たの
と。うらんとひく。たの及産うらんとひく。たの

をひく。たの及産うらんとひく。たの

○産を四目ふぬる事

是の右の産をうらんとひく。たの及産うらんとひく。たの
は希に。其産をうらんとひく。たの及産うらんとひく。たの
あつたり。板をうらんとひく。たの及産うらんとひく。たの
かりと。其か。は。わりの

○鞍を四目ふぬる事

しらの中を産右ふらたのひく。たの及産うらんとひく。たの
ひく。たの及産うらんとひく。たの

○ゆが産後(出)る事

ゆが産後(出)る事。ゆが産後(出)る事。ゆが産後(出)る事。

「かゝる格闘を我輩に於て後しあり

○貴人の馬に召付能はるる事

是の事とてたゞ事なり。さしひきかへしは、我輩に於ては、但し召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。

○中乃人の召付の事

あまたの召付に、召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。

○食の事、酒の事、茶の事、これらも

何れも、召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。

○甚に多くはついでに

甚に多くはついでに、召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。

○火并燭基の事

火并燭基の事、召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。

○甚だんのかき

甚だんのかき、召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。

○虫杖をさす事

虫杖をさす事、召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。召付能はるる事なり。

⑤ 内日沖法今こ子由作方者事して
被亦奇い不可有袖のいさへ備え

月日

是夜に君の君をまへ

在判

⑥ 乃沖餞扇子一箱をくらねは由系

⑦ 今乃苑は其下より家口能て下り

切た西飛々方事と後、獲ら今由宅

⑧ 万々下入の
⑨ 竈前を始る事余念ふに白後孫
⑩ 於口入魂をうろ毒呪い
⑪ 昨日の光る響る事余の事、以余の終
⑫ 下山た石なる像作方せ人あけ、
⑬ 所乃依の乃持皆く、以横場能は是け
⑭ 事以控無く自下事

天高

四十八、五十一

年号月日 准后

杖本百を引り並に沖用次第に相渡

年号月日 名判

<p>世 控のめりや 控とて大家又の寺方 かど人のおやと肉に 他法とて法名と並 おやうなり板のちと 又の紙ふりあり</p>	<p>控 一 一 之事 一 一 之事 一 一 之事 一 一 之事 年号月日</p>	<p>年号月日 下 お主人の物といふ程も 去ていふこととぞ 但三又七九を案い わたりともまた を</p>
---	---	--

是の市場又入於方との所を
里那を市方とに多るなり又
於万那の終の存にのり

世六 禁制 寺号

一 喧嘩口痛之事
一 伐採山林竹木事
一 田畠墾事
右修くたを犯族者逐
可慮農科者也仍下知
物伴
月日

世七 指の法度
け橋の上牛馬引
を

月日

是の出入のて
もの出入のて
是の出入のて
もの出入のて

市町に立制札

禁制

- 一喧嘩は傷く事
- 一押賣押買事
- 一料足撰事
- 右條々令違犯者可る曲事者迄

月日

割れ釘と釘

武運長久國安
 根とさふて釘とさ
 かりりちさるる
 事わぶをさる

彈中のせらりりりり
 くだんわり

入部の内

控

- 一諸公事免件之事
- 一諸伯町屋事者之事
- 一盜賊并放火人之事
- 右條々有違背輩者才
- 卷科者迄仍重定并

月日

割れとさふの釘

- 一葉観るがれ釘にてさる
- 一小むきにわくのねなり
- 一板とさふの釘板とさ
- 一板のさふ二尺二寸をさる
- 一のあにさる右の二尺二寸
- ハ十二周縁と表とさる
- 一割れ釘と釘より二尺二寸也
- 一人のひのさるるやうに也

換方

① 方折紙書振

これらを上出の虫
 やうなり列金一重
 とらにねるは
 にくかり又をく
 のひとつひまの
 ままといひまよ
 つまかーさげくま
 かり但る代の附
 のまかのめいこの
 毛くくにかよびる
 かり

進上	御太刀	御馬	以上
一腰 圓重	一匹 鹿毛		

上野越中守忠重

② 猿糸を折紙

猿糸	太刀	る	以上
一腰	一折		

名宗斗志忠信

③ 同深之書振

進上
 白鳥
 辛螺
 朝
 然
 昆布
 清指
 以上

官途名宗

一折
 一折
 一折
 一折
 一折

引合二重のあや

④

饅頭
 海苔
 索麵
 清指
 以上

名宗官途

一折
 一折
 一折
 一折

俗にさうりちのり又ちがさうり
 せんも人も日節たのり

⑤ 禪家の國師長老などへ服付

侍夜禪所 夜鉢禪所 侍夜圖下 侍者禪所

一返札ふり 系夜鉢禪所 侍者

一院主河圖梨 法中へ 番回宿中 近習中

玉安下 書意下 玉座下 学意下

雪意下 是の十月の 糸人へ中 何きとも返去

一 侍報のへ人 尖報 是の中へ 侍報 是の中へ

口返報 下書 口返事 是のよたか 口宿和 是のよ人

⑥ 誠恐誠惶敬白 恐惶敬白上 恐惶儀云 中ノ上

及々律々 中ノ下 及々 中ノ下

⑦ 度々(視)と料紙と指とある視のへ糸を我ながら視の下に紙と

通きしものお目紙紙のうにたしとおお馴ふととらあといき

てのへへりといきとあはするへりといきとあはするなりなり

かきし人なとらとらとこの心もたよりなり

⑧ 起信抄紙などのした紙指してつるのありこそ何の視のへに料

紙と通ありあといきとたにかして出なかり

⑨ 作候御神の身もなほはあへて御宜敷

⑩ 御心書律白以戴ふおぬい仍被侍下

披瀝のついで

二月三日

大館伊豆守殿

名実録

名実録

おのゝりしついで

おのゝりしついで

おのゝりしついで

おのゝりしついで

大膳大工殿

松尾信濃守

おのゝりしついで

おのゝりしついで

おのゝりしついで

おのゝりしついで

おのゝりしついで

おのゝりしついで

おのゝりしついで

おのゝりしついで

拜上光源院

系た馬助

築首座

松尾信濃守

お献茶西堂

松尾信濃守

寶相寺

原乃守助

一 傍家にてよく掃きぬるに

一 首座の中にておんを

一 西堂の由ありておんを

一 おのゝりしついで

一 おのゝりしついで

一 おのゝりしついで

一 おのゝりしついで

一 おのゝりしついで

一 おのゝりしついで

一 おのゝりしついで

一 おのゝりしついで

一 おのゝりしついで

一 おのゝりしついで

一 おのゝりしついで

智恩寺 貞信

系方三郎

せうきやうふ

夕 ちんたま

権左衛門尉 源貞徳

系

辛 同安徳振

小笠原大膳大進権右衛門

一 浄土宗の事...
一 権左衛門尉の事...
一 夕の事...
一 系方の事...

右子細者今度知れ被作付の事指令候後
迷惑の事候様被作付の事候旨候
有下候事被作付候事候旨候

年月日

右の紙の事...
まゝに候事候旨候事候旨候

借用の事

合根又拾貫目也

右根子今度依要用借用の事候旨候事候旨候

後志何道何月と云々遠志及返海と云
万一志と云々遠志及返海と云々
分在何と云々相道程と云々押並に其時
不て及一言と云々子細と云々仍信状如件

年号月日

名判

礼の尊卑をわけるやん〜〜〜礼を知るとん有
なるは親にいつる人お仕方の乃は礼成り〜と
敬聖人礼をおん〜あし礼樂射御書教とて礼と
以て徳養の上と志あり然るにを也知童初学候方と
号する書と云々の守とん〜も候事のみ多く礼ふるもの
乃り〜もあ〜候〜今小笠原流百ヶ条は信秘ると
漢とて集載〜追加信家日集の之礼ふ委〜程と加
知童初学の守と云々の〜ぬ

二条通教殿所

明和七庚寅年八月吉日

山本長兵衛板

